きょうされん第 39 回全国大会 in くまもと　アピール

本年 4 月に熊本地方を襲った大地震は、この地方に未曽有の被害をもたらし、いまだに多くの障害のある人たちが支援を必要としています。半年が経った今なお、孤立した状態で、福祉や医療の適切な相談や支援を受けられずにいるのです。すでに日本でも批准している障害者権利条約では、自然災害時における障害のある人の保護や安全の確保がうたわれています。それにもかかわらず、公的な支援は十分ではありません。阪神淡路大震災や東日本大震災などの経験が活かされていないというのが、被災地の実感です。

★

7 月 26 日未明に神奈川県相模原市で起きた障害者施設での殺害事件は、全国の障害のある人たちや関係者に、大きな衝撃をもたらしました。19 人が犠牲となり、27 人が負傷するという、例をみない大事件となりました。障害の重い人がターゲットにされたこと、容疑者が元施設職員であったことなども、深い悲しみとなってわたしたちの胸を締めつけています。犠牲となった人たちに哀悼の意を表するとともに、事件の真相が 1 日も早く明らかにされることをねがいます。

この大事件は、今大会でも大きな話題となりました。大会を通じて、事件の背景として浮かび上がっている「障害者は生きていても仕方がない」といった優生思想や、障害者政策にも忍び寄る競争至上主義を克服していかなければならないことを共有しました。措置入院や防犯を強化するだけでは事件の再発防止につながらないことを、ここにあらためて強調します。

★

みなさん

憲法公布 70 年の今年、わたしたちは第 39 回全国大会を、火の国・くまもとで開催しました。

震災直後は大会の開催自体が危ぶまれました。しかし、地元関係者の「負けてはいられない」という強い意思と、熊本県内外の物心両面にわたる励ましを得て、開催にこぎつけました。大会は、柳田邦男実行委員長のもとで障害のある仲間 800 人を含む 2,200 人を超える参加者と、460 人のボランティアのみなさんの協力により、成功のうちに幕を閉じることができました。地元自治体をはじめ関係団体･個人のみなさんに、心から深く感謝申しあげます。

全体会や特別分科会を通じて、わたしたちはハンセン病や水俣病の歴史と実体を学びました。当事者が語り継ぐことがいかに重要であるかを痛感し、「つながる力」「忘れない力」「語り伝える力」を持つことの大切さを確かめ合うことができました。同時に、震災にくじけず、みんなで励まし合い、団結して前にすすむことを決意しました。

大会スローガンの“障害者権利条約をこの国の文化に”を参加者みんなの胸に刻み、それぞれの地域で、それぞれの方法で実現していこうではありませんか。

★

みなさん

いま、日本は憲法をないがしろにして再び殺し殺される国へと歩み始めようとしています。また、「我が事 丸ごと」政策や介護保険制度の「破綻」に象徴されるように、社会保障制度が大きく後退しようとしています。わたしたちは障害のある人の命の尊厳を重視する立場から、社会参加を阻まれている多くの市民と手を取り合い、平和主義と基本的人権の尊重をうたう現在の憲法を守り抜くことを、ここ熊本の地から宣言します。

きょうされんは、来たる 2017 年には、結成 40 周年を迎えます。そして、今大会直後の 11 月より、新たな拠点となる本部事務所での活動が始まります。今大会は、わたしたちきょうされんにとっても大きな節目となります。

障害のある人たちの権利を守るため、わたしたちはいっそう全力で運動を前進させる決意を表明します。市民のみなさんの心からのご支援を訴えます。

2016 年 10 月 23 日

きょうされん第 39 回全国大会 in くまもと　参加者一同